

環境パフォーマンス

産業廃棄物のゼロ・エミッション化

事業活動に伴って発生する廃棄物については、再資源化率を高め、ゼロ・エミッション化を推進しています。2000年度における産業廃棄物排出量は13.0万トン、うち処理・処分量は3.7万トン、外部リサイクル量は9.3万トンでした。このほか、有価物として4.4万トン売却しました。廃棄物の有効利用に努めた結果、再資源化率は前年比1.7ポイント向上し、78.7%となりました。

今後は、産業廃棄物の発生抑制・排出量の削減についても目標を掲げ取り組んでまいります。

産業廃棄物発生抑制・排出量削減・ゼロ・エミッション化の目標と達成事業所(2001年3月末現在)

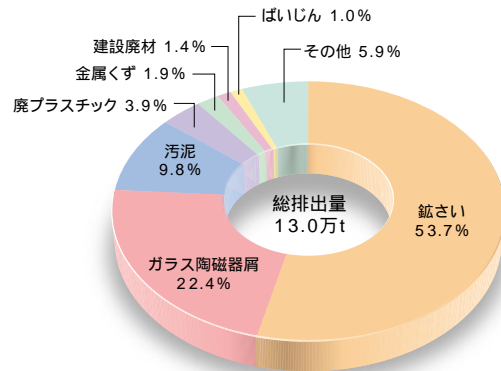
産業廃棄物発生抑制・排出量削減目標
 産業廃棄物の発生量・排出量を、2005年度に2000年度比15パーセント削減する。

ゼロ・エミッション化目標
 定義：社内・社外の埋立廃棄物「ゼロ」
 ・「ゼロ」とは廃棄物の埋立を原則1%以下に削減することをいう。
 ・自らが排出事業者になっている廃棄物を対象にする。
 ・流通回収廃棄物は対象外とする。

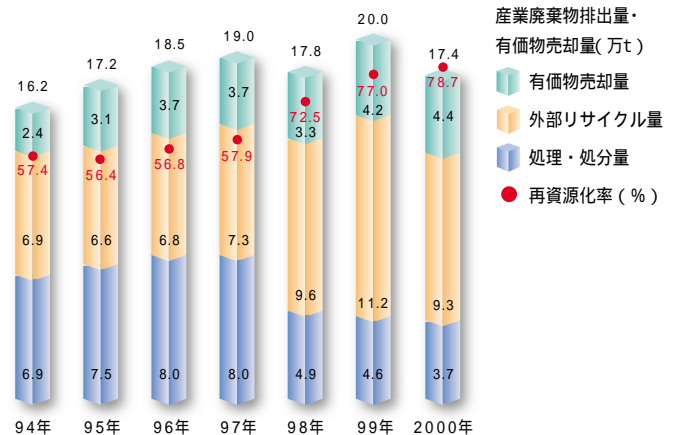
達成目標：鋳物系・機械系事業所 …………… 2003年度
 その他事業所 …………… 2005年度

ゼロ・エミッション化達成事業所
 7工場(船橋、恩加島、堺臨海、浪速、宇都宮、筑波、久宝寺)

2000年度全社産業廃棄物排出量と内訳

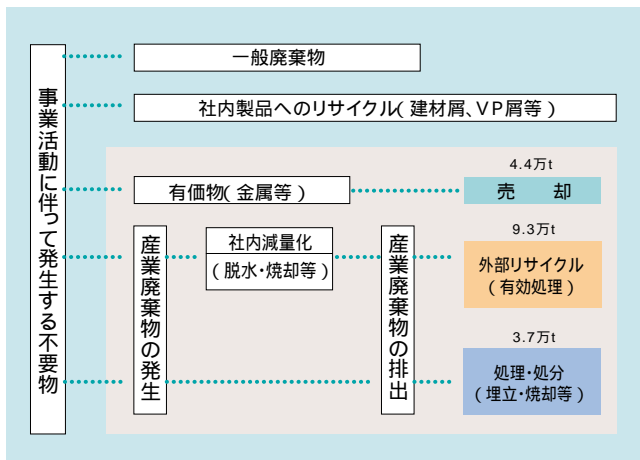


全社産業廃棄物排出量・有価物売却量・再資源化率推移



・産業廃棄物排出量=処理・処分量+外部リサイクル量
 ・再資源化率(%)=(外部リサイクル量+有価物売却量)÷(産業廃棄物排出量+有価物売却量)×100

2000年度全社産業廃棄物排出量と処理フロー

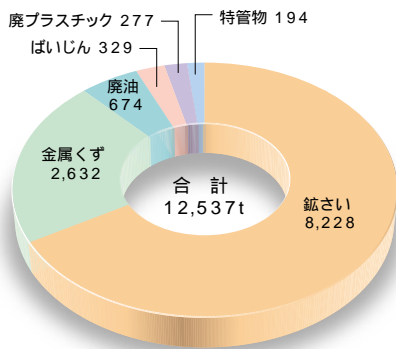


廃棄物の減量化とコスト低減効果

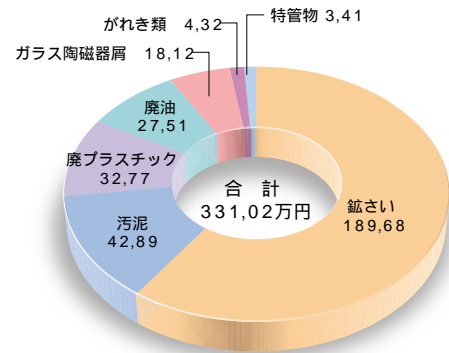
産業廃棄物の内、2000年度排出量の53.7%を占める鋳さいは、セメント原料や路盤材等として外部でリサイクルされています。減量化、リサイクル活動の結果、2000年度処理・処分量は前年比0.9万トン減少しました。

また、産業廃棄物委託処理費用および廃棄物のリサイクルによる原料等購入費の低減により、年間331百万円のコスト低減効果を生み出しています。

2000年度産業廃棄物減量化と内訳



2000年度コスト低減効果と内訳



産業廃棄物リサイクル事例(恩加島工場)

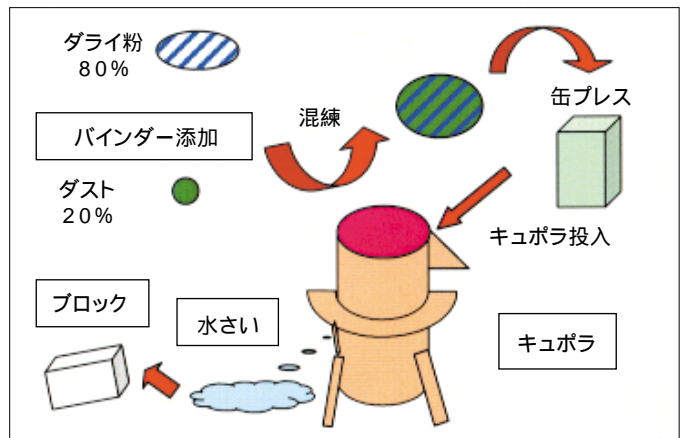
産業廃棄物の減量化を目指し1998～2000年度実施した社内コンテストにおいて優秀な成績を収めた恩加島工場(大阪市)の事例について紹介します。

キュボラダストの再資源化

キュボラより排出されるダストは、埋立廃棄物として処分していました。

これをドライ粉と混練し缶プレスしたものを、キュボラへ再投入することにより、溶融しスラグ化を行いました。

これにより、廃棄物としてのダストはなくなり、生成したスラグはインターロッキングブロックの原料として有価物化を図っています。



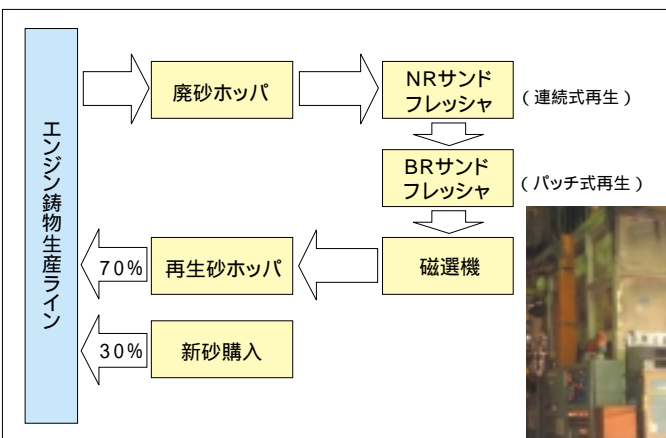
ダストを混練した缶ドライ



水さい



インターロッキングブロック



中子廃砂の自社再生利用

エンジン鋳物生産ラインより発生する中子廃砂をライン内で回収し、再生してコールドボックス中子用砂として新砂と混合後再利用し、産業廃棄物としての発生量減量化を図りました。

当初、廃砂と新砂の使用比率を各々50%に設定していましたが、配合の変更テストや再生装置の能力アップにより、廃砂の使用比率を段階的に60%から70%まで引き上げ、混練全体量の20%を新砂から廃砂へ置き換え、材料費のコストダウンとともに産廃としても発生量減量化を達成することができました。



廃砂再生装置